

78. ソデイカ 袖烏賊(たるいか・かさいか)

秋



◇撮影後のコメント◇

漁法はイカ釣りではなく定置網。釣行の対象として盛んな地方もあるが、当県では釣行の例は見かけない。魚体が大きいので、さぞかし釣応えがあるように思える。味は、他のイカ類と比較してやや淡いが、その淡さを補って余りある柔らかさとなる。柔らかいので良く噛める。噛むと本来の味が滲み出る好い例。酢飯との相性も好い。

石油価格の話の続きである。一般的に需要増に伴うインフレは善、需要増なきインフレは悪、もしくは、コストが上がりそれに追随するインフレは悪と言われている。石油（関連）の需要が価格と同等に増えた実感はないし、事実もないであろう。何かの指標の数字を創り出すために、関係機関が現下の石油価格の高騰について、作為的に不作為や黙認を行っているとするれば、いかながなもと不信感が募る。一般庶民はどうすればよいのか？道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である。と二宮尊徳が提唱したと伝えられている。犯人は誰だ。命題「部分最適の総和は、全体最適とはならない」についてワシはそれが「真」であると確信している。帰納法的に考察すると、この件がその1例である。

ソデイカの話。県内産のイカ類中、1イカ2位かを競い合うほどの柔らかさである。味はやさしい味である。その柔らかさを幅広い年齢層の方々に召し上がっていただきたい。